

# 全国中国語教育協議会

ニューズレター

第10号

1999年2月25日発行

## 99年度教員セミナー(前期)に新しい試み 会報にはアンケート方式で会員の意見を反映

前号ニューズレターに掲載した協議会活動現況報告(98年11月末現在)には、会員が活動に多数参加できる方策をたてることが重要な課題とされていた。来る3月末には1年1度の定例理事会を招集することになっているので、その際に、理事各位から今後の活動方針と具体的事業計画について、有効な具体案を賜る予定であるが、本年4月から7月までの99年度教員セミナー(前期)は本号で日程を発表することになっているので、理事会を待たず、これまでのセミナーに寄せられたご意見を取り入れ、事務局で立案した(p.4参照)。新しい試みとして、これまでのような講師からの一方通行を排し、参加者には事前に質問表(仮称、病院などの問診表にあたるもの)を提出していただいたり、セミナー席上でもご意見やご体験の披露をしていただき、講師のほかに進行役をおいて全体のまとめをする、という方式を採用する。なお、夏季セミナーについては従来の方式を考えている。

### 第1回中国語教育協議会アンケート

以下の質問に同封の葉書でご回答ください。お名前のご記入は任意です(無記名可)。お名前ご記入の場合は葉書の表面にご回答以外のご意見ご要望も表面をご利用ください。(質問1) 月例セミナー・夏季セミナーに取り上げてほしい企画。(質問2) 年次大会を東京で開催するとして、出席しやすい時期。(質問3) 年次大会(会期1日)のプログラムに取り上げたい企画。(質問4) これまでに使った(教師として、学生として)教科書で、推奨できるものがあればその書名(著者)と、その理由。(質問5) これまでに使った(教師として、学生として)教科書で、「難あり」(特に不適切と感じた点)と思うものがあれば、その問題点を具体的に。【3月末締切】

会報(ニューズ・レター)についても、会員との結び付きを強めるため、送付の都度、できるかぎり、アンケート用紙を同封し、協議会の運営について、また中国語教育に関する諸問題についてご意見を賜り、結果を会報に公表するとともに、活動に反映させることとした。早速、本号のアンケートに同封の葉書でご回答いただきたい。

### 事務局のご案内

156-8550 東京都世田谷区桜上水3-25-40

日本大学文理学部中国文学研究室内

全国中国語教育協議会

郵便振替口座 00120-0-364168

(会費・寄付金振込にご利用下さい)

なお、お問い合わせ・ご連絡等は、お手数でも郵便でお願いいたします。



## 北京新亜研修学院

中国語の教育や研究に関する学会・研究会をはじめ、施設・機関などを順次紹介する

中国に私立大学はない、と思っている人は少なくあるまい。しかも外国人が語学研修に留学できる所といえば、その存在を知る人は多くない。その私立大学が、「対外漢語教学」の大本山と目される北京語言文化大学(北京語言学院)から北にやや離れて、キャンパスをかまえている。語言に近いといえば、この新亜研修学院は天安門事件のころまで語言学院の院長を勤めた呂必松教授が北京市の認可を受けて創立した高等教育機関である。呂氏が「世界漢語教学学会」を率いる、対外漢語教学の最高権威であるのみならず、新亜研修学院では語言学院を定年退職された超ベテラン教師の方々が授業を担当されている。語言学院がスタッフの世代交代で、かつての栄光を失った感もする現在、新亜は規模が小さいだけ小回りのきく、行き届いた語学研修を目指している。私自身、何人かの学生を1か月の研修に送って確かめ得たところである。創立当初は語言学院の北側にある磁業学院の教室や宿舎を間借りしていたが、いまは独立の施設となっている。しかし、将来的には北京市内でより大きなキャンパスを取得する予定と聞いている。呂必松院長の令息も近く現勤務先の北京師範大学から新亜に移るそうである。先生方に聞いたところでは、語言学院よりも講師手当の単価が高いとか。それでいて授業料は、通常クラス(学生数5~15人)で2週間280ドル、4週間390ドル、…40週間1870ドル、宿舎(バス、TV、電話、クーラー)はシングルで1日12~14ドル、ツインで1日6~7ドル(長期の場合はそれぞれ通減)と、平均的である。

【新亜研修学院データ】創立は95年5月、北京市認可:京教社証字(市)V6T019号。95年5月から外国人留学生を受け入れ、同9月から中国人学生を受け入れ。所在地は、北京市海淀区双泉堡甲66号、郵便番号100085、電話・ファクス(86-10)6231-2865。(輿水優)

### ✍ 全国中国語教育協議会 会報・研究論集 原稿募集 ✍

会員による積極的な投稿をお願いいたします。執筆要領は下記の通りです。

- ☆ 会報掲載原稿 ①教室での工夫・授業のアイデア ②教学実践記録(教案等も含む) ③国内外の中国語教育・研究関係学会・研究会・シンポジウム紹介 ④私の読んだ本(外国語教育の分野で、紹介・書評とも) ⑤その他、会報にふさわしい内容の原稿。1編1千字以内。ワープロ使用を原則とし、手書きの場合は400字詰め原稿用紙使用。締切りは特に設けない。採否は事務局一任とし、随時掲載。原稿は返却しない。特に、本号ご紹介のフランスにおける「授業のアイデア」のような原稿をお待ちします。
- ☆ なお、99年度内に刊行予定の「研究論集」には、委嘱論文以外に、投稿による論文(有審査)も掲載します。締切りは前号ニュース・レター掲載の通り99年2月末日(必着)となっていますが、投稿ご予定のある方は詳細につき事務局まで至急ご連絡ください。



「私の読んだ本」の1冊に西池和巳氏による「小さな華麗な物語」という、書名も装丁も洒落た私家本がある(97年7月14日発行)。

サブ・タイトルに1996年・夏・ヴィシーと記すように、著者がフランスはヴィシーのフランス語専門学校で学んだ6週間の体験を中心に、「物語」が展開する。西池氏は、国語教科書の編集に多年従事され、お仕事を退かれた後、かつて専攻されたフランス語を、東京で、パリで、そしてヴィシーでふたたび学ぶ機会をお持ちになった。この本には、外国語教師の傾聴すべき有益なご体験が随所に記されている。私家本のため入手は難しいから、「授業のアイデア」としてその一節を以下にご紹介する。(興水)

[前略]この演習では、意表を突かれることが多かった。ある日、クールソル先生が配ったコピーには、こんな場面が描かれていた。<若者が、数日前にクリーニングに出したまだ新しい皮ジャンを店に受け取りに行く。ところがきれいになっていない。若者は怒り、抗議する。店員はこれ以上きれいにならないと抗弁する。若者が更に抗議すると、追加料金五十フランを支払えば、特別クリーニングできれいになると言う。…>

この場面を想定して、二人がペアになり、若者の不満、怒り、抗議、そして店員の反論、主張、抗弁を会話にせよ、というのである。テーマは感情表現、特に怒りの表現だ。

こうした会話作りやその実演というのは、よくやる活動で別に珍しいことではない。もっと基礎的な内容ではあったが、フェビエンヌ先生の初級クラスでも同じ形態の演習が行われていた。

早速、隣のドイツ人女性と取りかかった。彼女が店員、ぼくが若者になって、相談しながらストーリーをまとめ、感情表現と屁理屈を駆使して二ページの会話を仕上げていった。起伏に富んだ面白い内容で、これはいけるぞ、と思った。彼女も同感らしく、子供っぽい笑顔でささやいた。

「できるだけ誇張して読みましょう。」

「そう。オーバーに演技しましょう。」

と、ぼくも同意した。

ところが、いざ、発表と思っていたら、クールソル先生が、

「店員の人はこっちへ。若者の人はこっちへ。」と分けたのである。そして、若者と店員の組み合わせを変えて会話をしなさい、と指示したのだ。教室中にざわめきが起こった。これでは、各ペアが書いた会話文を読み合うというわけにはいかない。場面は同一でもストーリーが違うのだから、話のつじつまが合わなくなる。ぼくも少々あわてた。なかなかやるもんだな、と感心した。

クールソル先生に新たに指名された若い二人が始めたのだが、二言三言話し合ううちにつかえてしまった。それぞれが作った会話文の流れにとらわれているからだろう、先に進めなくなった。若い二人が悲鳴を上げた。周りも大笑いになった。多分に自嘲の笑いが含まれていただろう。臨機応変の柔軟性を要求するような方法も、意外性があって面白いと思った。[後略]

中国語教室での《授業のアイデア》募集

## 99年度教員セミナー(前期)のご案内

99年度も前年度と同様に、土曜日利用のセミナーと、夏期休暇利用のセミナーの2本立てで教員研修を実施します。月例セミナーは4～7月と10～12月の各月第二土曜を原則としますが、今回は4～7月の前期4回のご案内をいたします。新しい試みとして、これまでのような講師からの一方通行を排し、出席者からも発信可能な方式をとることにしました。詳細は下記要項をご覧ください。なお、参加は会員(教歴の比較的浅い方を特に歓迎)を優先いたしますが、会員外の方々にも積極的な参加を求めたく、会員各位には周囲へのPRもお願いしたいと思います。昨年度は各回とも大きく定員割れでした。会場の提供があっても、参加が定員の70%以下では赤字になります。

### 99年度前期セミナー要項

#### ☆各回の日程および研修テーマと講師

(4月)	4月10日(土)	入門段階の発音教育	東京外国語大学	孫玄齡氏
(5月)	5月8日(土)	初級段階の文法教育	東京外国語大学	依藤醇氏
(6月)	6月12日(土)	中国語教科書の作り方	日本大学	輿水優氏
(7月)	7月10日(土)	中国語学力判定法(練習問題編)	明治大学	武信彰氏
			同上	[試験問題編]日本大学 輿水優氏

#### ☆時間割りと会場

各回とも研修時間は、午後1時半～4時半(1時10分受付開始)。

会場は従前通り(財)国際文化フォーラム会議室(新宿駅西口、新宿第一生命ビル26F)

☆申し込み方法 葉書に参加希望の月と、氏名・連絡先(住所)・所属・中国語教育歴をお書きの上、事務局へお送りください。定員各35。申し込みは直ちに開始し、定員にて締め切ります。折り返し、受講料の振込用紙と事前提出用の質問表を郵送します。受講料は1回=¥2,500、一括申し込みは2回=¥4,500、3回=6,500、4回=¥8,500です。各回ごとの申し込みは、その都度¥2,500となります。(受講料事前納入をお願いします)  
☆参加者にお送りする質問表(意見表を兼ねる)は原則として半月前までに回収し、セミナーの内容に反映させます。また当日、参加者の直接のご発言も歓迎いたします。

#### ★★ 中国語教育・情報ファイル ★★

去る1月に実施の大学入試センター試験の、中国語を含む外国語科目関係のデータは以下の通りです。(外国語は200点満点)

	受験者数	平均点
英語	469,272	111.41
ドイツ語	134	140.16
フランス語	178	143.10
中国語	223	152.56

(昨年度中国語は242名、平均点139.73)

#### ⇒⇒ 資料提供のお知らせ ⇐⇐

今年度センター試験中国語問題をご覧になりたい会員には実費でコピーを郵送いたします。本試験の問題は入手された方も多いため、下記①と②のいずれかをご指定の上、①は80円切手7枚、②は80円切手5枚を事務局にご郵送ください。3月末まで受け付けます。順次お送りいたします。

①本試験+追試験 ②追試験のみ

お申し込みは事務局(p.1に所在地掲載)まで。